県大生 ラッキョウ植え付け

高知市春野町仁ノ まちおこし手伝う

島ラッキョウの苗を植え付ける県大生ら（高知市春野町仁ノ）

沖縄が主産地の島ラッキョウの特産化を目指している高知市春野町仁ノの集落活動センター「仁ノ万葉の里」を高知県立大学の学生がこのほど訪れ、ラッキョウの植え付けを手伝い、まちおこしについて話し合った。

文化学部3年生の地域学習の一環。学生4人が同センターのメンバーに教わりながら砂地の畑にくわで10センチほどの溝を掘り、肥料をまき球根状になった苗を丁寧に埋めていった。約1時間の作業は水やりで終了。「暑くて大変です」と、汗びっしょりになっていた。

学生らはその後、春野公民館仁ノ分館で集活センターのメンバー約20人から地区の課題やセンターの事業について聞き取り。メンバーは「高齢化で畑の管理が難しく拡張できるマンパワーが足りない」「商売の経験者がいないので経営のノウハウがない」などの課題を挙げ、学生は日曜開設のカフェとまち歩きをつなげたモデルコースづくりや、地元の中高生との連携などを提言していた。

県立大生の下村透矢さん(21)は「畑仕事は大変でしたが新鮮で楽しかった。学生が畑仕事を体験したり、作物を販売したりできる仕組みがあれば面白い」と話していた。（富尾和方）

2023年9月15日（金） 高知新聞掲載記事